

「道の駅」の設計・改修技術に関する研究

【要旨】

「道の駅」は、道路利用者の沿道休憩施設としてだけでなく、地域の振興にも重要な施設となっている。しかし、現状では自治体や設計者の「道の駅」の計画や設計に関する知見が十分でなく、休憩施設としての機能や魅力の欠如、多様化するニーズに対応していない事例も多くみられる。そこで、本研究では多様化する「道の駅」のニーズや機能に対応した。適切かつ一定水準の計画・設計技術の提供を目的としている。

平成27年度は、文献・資料の収集をはじめ、「道の駅」の現地調査や関係者へのヒアリングを行った。これらを基に「道の駅」に期待される役割や機能、ユーザーニーズについて分析を行い、「道の駅」の計画・設計上の現状と課題について整理した。

キーワード：道の駅、計画、設計、機能、課題、ユーザーニーズ

1. 背景

1.1 「道の駅」と地域振興

「道の駅」は、発足から20年以上経過し、今では全国で1,093駅登録(2016年5月10日現在)され、年間購買客数2億人以上とされる¹⁾。

現在の「道の駅」は、沿道の快適な休憩施設としての役割のほか、観光振興だけでなく地元製品の加工や販売を行い地域の雇用を創出する産業振興など、道路利用者のみならず地域にとっても重要な施設となっている。また、近年はその手法が道路インフラを生かした地域開発モデルとしても優れているとの評価から、JICAなどの協力により、海外でもその整備が行われている。

このため、昨年閣議決定された国土形成計画(全国計画)²⁾では“「道の駅」について、産業、教育、福祉等の様々な分野において更なる機能発揮のための取組を進める”と示されている。また、第4次社会資本整備重点計画³⁾でも“地方創生の核となる「道の駅」の機能強化”が挙げられ、第8期北海道総合開発計画⁴⁾においても、“「道の駅」の観光情報提供等の拠点としての活用を推進する”、“「道の駅」等の既存施設を避難拠点として活用する”と明記されるなど、「道の駅」は地域や観光振興に重要な政策となっている(写真-1)。

1.2 多様化する「道の駅」とその機能

「道の駅」は“休憩機能”、“情報発信機能”、“地域



写真-1 地域振興に貢献する「道の駅」(イメージ)

連携機能”の3機能を併せ持つ施設として設置されているが(図-1)、当初の設置の目的としては「一般道路にも安心して自由に立ち寄り、利用できる快適な休憩のための“たまり”空間が求められ誕生した施設」とされている⁵⁾。

「道の駅」の制度が発足した当時はドライバーの立ち寄り施設であったものが、「道の駅」自体が目的地となっている事例も少なくない中、一方で最近では、“まち”の特産物や観光資源を活かして“ひと”を呼び、“しごと”を生み出す核へと独自の進化⁶⁾を遂げ始め、さらには人口減少が進む中山間地域の生活拠点としても位置づけられるなど⁷⁾(図-2)、地域にとっても拠点



図-1 「道の駅」の3つの基本機能



図-3 「道の駅」の小さな拠点イメージ⁷⁾



図-2 近年の「道の駅」の機能イメージ⁶⁾

的な施設となっている。

また、2004年に発生した新潟中越地震において、「道の駅」は避難者支援施設、災害復旧拠点、情報提供施設などとして大きく災害復旧に貢献したことにより、防災機能が「道の駅」の新たな機能⁸⁾として注目されるようになった。このことは、2011年の東日本大震災における「道の駅」の活用や貢献により、今や多くの「道の駅」に対して期待される機能となっている。

このように多様化する「道の駅」の機能を強化するため、制度を策定した国土交通省だけではなく、他の省庁も「道の駅」を核とした地域活性化の取組に期待⁶⁾し、様々な支援を行っている(図-3)。

2. 研究の必要性と目的

道路利用者の快適な休憩の提供だけでなく、地域振興や防災などの拠点施設となった「道の駅」は、利用者数の増加だけでなく、社会的関心も高い。しかし、一方で、その計画や設計においては課題も多い。例えば、車の利便性中心の駐車場をはじめ、整備された園地がほとんど利用されていない(利用しにくい)などの例も多く、そのため利用者の満足度や運営面で負に影響している事例や開設後短期間に改修を行う事例も少なくない。

当研究所の先行研究での調査などから、この理由として以下のことが考えられる。

①施設全体の設計自由度が高く、地域性や独自性が強いこともあり、他の「道の駅」の設計事例が参考となりにくい。

②「道の駅」が設置される地域の設計事務所等が担当することも少ないので、元々一般的な施設でないため、設計者の有するノウハウや経験が十分でない。

③参考となる実質的なガイドライン等が存在しない(※駐車場の台数やマスの大きさなどを計算方法や、高速道路のサービスエリアのトイレの設計事例などが示されている程度のものしか存在しない。)

そのため、整備する各自治体などにおいて、実用的でわかりやすい「道の駅」の設計や改修に関する技術情報の提示が求められている。

また、「道の駅」は世界10カ国以上に整備され、ODAや世銀の融資、JICA国際研修が行われるなど、国際的な展開も期待されているなか、各国各地域の社会環境が違えば、このような設計ノウハウの提供は有効となる。

そこで本研究では、多様化する「道の駅」のニーズや機能に対応した、適切かつ一定水準の共通する計画・設計技術を提供することを目的としている。

3. 「道の駅」の設計・改修技術に必要となる検討項目

「道の駅」の設計・改修には、全体レイアウトや施設配置、駐車場、屋内外の休憩施設、物販コーナー、園地・植栽、情報提供施設、サイン類、道路からの見え方、眺望施設、バックヤードなどの施設の要素別に(図-4)、現在の「道の駅」が抱える設計上の課題や、多様化していく利用者や地域のニーズなどについて整理する必要がある。

また、これらで得られた知見を要素別に、設計・デザインと利活用のされ方や利用者評価との関係性につ

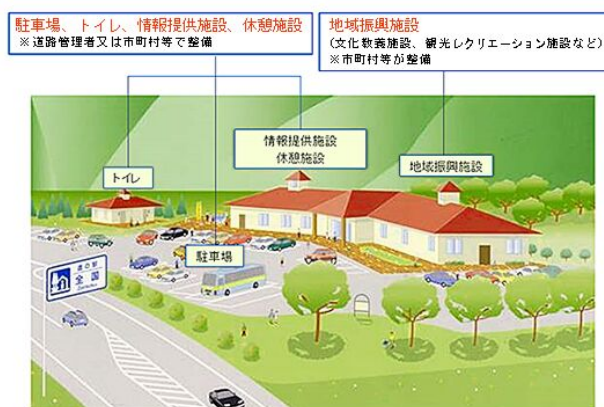


図-4 国土交通省が示す「道の駅」の施設構成のイメージ⁹⁾

いて把握する必要がある。本研究では以下の項目を研究の達成目標としている。

- ①「道の駅」の設計上の利用者ニーズと課題の整理体系化
- ②「道の駅」の要素別の設計やデザインと利活用のされ方や利用者評価の関係性の把握
- ③多様な活用やニーズに対応した「道の駅」の設計技術のガイドラインの作成

平成27年度は、「道の駅」の計画・設計上の課題と利用者ニーズの整理体系化と、「道の駅」の要素別の設計・デザインと利活用のされ方や利用者評価との関係性を把握することも目指し、「道の駅」に関連する文献や資料の収集と、及び「道の駅」の自治体担当者や管理運営者などに対して、ヒアリング調査や現地調査を行った。また、「道の駅」に対するニーズ、期待される役割や機能について、観光客や地域住民など、利用が想定される対象者別に分析を行い、「道の駅」の設計上における現状と課題について整理した。

表-1 収集・整理した既存資料(一部抜粋)

No	資料名	発行主体	発行年	概要	資料分類
1	国土交通省道路局HP【道の駅案内】	国土交通省		「道の駅」の概要(概念、目的・機能、整備フロー、設置者、登録要件など)、シンボルマーク、これからの道の駅、沿革の説明	Web情報
2	国土交通省道路局HP【「道の駅」登録・案内要綱】	国土交通省		「道の駅」の目的、基本コンセプト(設置位置、施設構成、提供サービスなど)、登録の申請方法、当面の運用方針などを説明	Web情報
3	北海道開発局管内の重点「道の駅」の選定について(記者発表資料)	北海道開発局	H27.1.30	重点「道の駅」制度の概要(想定機能、選定の流れ)、各重点「道の駅」及び重点「道の駅」候補における取組み概要の説明	Web情報
15	都市公園技術標準解説書(改訂版)	(社)日本公園緑地協会	H16.6	都市公園の整備にあたって、公園内に設置される公園施設が合理的に設計・施工され、また管理されるようにするために策定されている「都市公園技術標準」の改訂版	既存文献
16	ユニバーサルデザインによるみんなのための公園づくり	(社)日本公園緑地協会	H20.2	バリアフリー新法及び「都市公園の移動等円滑化整備ガイドライン」を踏まえ、「みんなのための公園づくりユニバーサルデザイン手法による設計指針」を見直したものであり、今後の都市公園等のユニバーサルデザインに関する技術的な指針となることを目的として作成	既存文献

4. 「道の駅」の多様なニーズと課題の整理体系化

4.1 関連文献や資料の収集・整理

「道の駅」の“休憩”、“地域連携”、“情報提供”の基本3機能に防災機能を加えた4機能を対象に、これらの機能に関わる具体的なニーズや期待される役割について把握する必要がある。また、これら「道の駅」の4機能以外に期待される(必要となり得る)機能についても調査・検討を行う必要がある。

なお、ここで述べたニーズは、主に利用者に関するものと道路管理者・設置運営者等に関わるものがあり、さらに利用者についても、観光客や地域住民なども想定される。

そのため、平成27年度は、「道の駅」に関する文献や資料(既存調査資料、Web資料)を収集(合計:16件)した(表-1)。収集した資料毎に記述内容から「道の駅」に求められる機能を分類(ここでは基本となる3機能および地域支援や産業振興などの機能)し、そこから利用者・設置者・管理運営者などの対象者別に整理した。その結果、「ニーズ・期待される役割」として160項目が抽出された(表-2)。

4.2 ヒアリング

次に「道の駅」の多様化するニーズや利活用のされ方などを把握するため、「道の駅」を管理運営する各自治体の担当者及び管理運営者、設計者、有識者に対して現地ヒアリングを行い、同時に「道の駅」の設計時、管理運営時における留意点を現地で確認しながら実施し、結果を各種種別ごとに整理した。

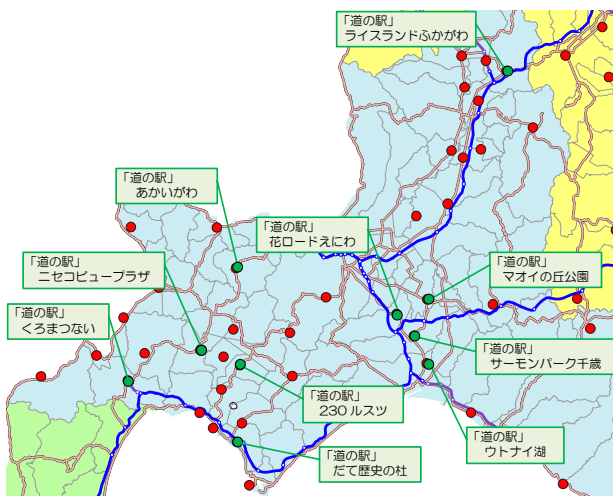
4.2.1 現地ヒアリング及び有識者(管理運営経験者)ヒアリング

(1) ヒアリング箇所の選定

以下の方針でヒアリング箇所を抽出し、参考となり

参照資料					道の駅のニーズ・期待される役割		自動 旅行 者	管 官 ・ 府	⑤			
No	資料名	発行主体	発行年	概要	機能分類	内容			商工 会	観光 協会	農協 漁協	その他
1	国土交通省 道路局HP 【道の駅案内】	国土交通省		「道の駅」の概要（概念、目的・機能、整備フロー、設置者、登録要件など）、シンボルマーク、これからの道の駅、沿革の説明	休憩	利用者が無料で24時間利用できる十分な容量を持った駐車場	平常					
					休憩	利用者が無料で24時間利用できる清潔なトイレ	平常					
					休憩	障がい者用のトイレ						
					休憩	道路交通の円滑な「ながれ」を支える（道路利用者が、一般道路で『安心して自由に立ち寄れ、利用できる快適な休憩のための「たま」空間』を確保）						
					情報	道路及び地域に関する情報の提供（道路情報、地域観光情報、緊急医療情報等）		平常	平常			
					情報・連携	沿道地域の文化、歴史、名所、特産物などの情報を活用した多様な個性豊かなサービスの提供	平常		平常	平常	平常	
					連携	文化教養施設、観光レクリエーション施設などの地域振興施設	平常		平常	平常	平常	
2	国土交通省 道路局HP 【「道の駅」登録・案内要綱】	国土交通省		「道の駅」の目的、基本コンセプト（設置位置、施設構成、提供サービスなど）、登録の申請方法、当面の運用方針などを説明	連携	地域の核の形成、活力ある地域づくりや道を介した地域連携の促進						
					休憩	休憩目的の利用者が無料で24時間利用できる十分な容量の駐車場（駐車台数概ね20台以上）を備える	平常					
					休憩	休憩目的の利用者が無料で24時間利用できる十分な容量を持つ清潔な便所（水洗式、便器数概ね10器以上）を備える	平常					
					休憩	駐車場・トイレ、及びその間を結ぶ主要な歩行経路のバリアフリー化						
					休憩	安全で快適な道路交通環境の形成						
					休憩	女性・年少者・高齢者・身障者など様々な人の使いやすさに配慮						
					情報	道路及び地域に関する情報を提供する案内所又は案内コーナー（原則として案内員を配置し、親切な情報提供）						
3	北海道開発局 管内の重点「道の駅」の選定について（記者発表資料）	北海道開発局	H27.1.30	重点「道の駅」制度の概要（想定機能、選定の流れ）、各重点「道の駅」及び重点「道の駅」候補における取組み概要の説明	情報・連携	利用者に多様なサービスを提供するサービス施設があり、案内施設と一体的に利用可能（徒歩2～3分以内に位置）						
					連携	地域の振興						
					情報・観光振興	地域の観光総合窓口機能（地域全体の観光案内、宿泊予約窓口等）	平常					
					観光振興	インバウンド観光の促進（外国人案内所、免税店、無料公衆無線LAN、海外対応ATM等）			平常			
					地域支援	地方移住等の促進（地方移住のワンストップ窓口、ふるさと納税の情報提供等）						
					産業振興	地域の産業振興（地方特産品のブランド化、6次産業化等）				平常	平常	
					地域支援	地域福祉の向上（診療所、役場機能、高齢者住宅等）						
					防災	高度な防災機能（広域支援の後方支援拠点、防災教育等）						
					休憩	道路利用者が自動車も道路外に安全に駐車し、疲労回復や仮眠などをとれる駐車施設	平常					
					休憩	車外に出て疲労回復を促進させる施設（無料休憩スペース、園地・庭園、四阿・展望台、リフレッシュのための飲食物の自動販売機、食堂・喫茶施設）	平常					

地域	道の駅	所在市町村	登録年度	専用 / 既存施設活用	複合施設	ヒアリング日
石狩・空知地方	ライスランドふかがわ	深川市	H14	専用	×	H28.1.29
	サーモンパーク千歳	千歳市	H16	専用	○	H28.1.28
	マオイの丘	長沼町	H8	専用	○	H28.1.29
	花ロードえにわ	恵庭市	H17	専用	×	H28.2.23
後志地方	くろまつない	黒松内町	H11	専用	○	H28.2.4
	230ルスツ	留寿都村	H14	専用	○	H27.12.14
	ニセコビュープラザ	ニセコ町	H9	専用	×	H27.12.14
	あかいがわ	赤井川村	H27	専用	×	H27.12.14
胆振地方	だて歴史の杜	伊達市	H12	専用	○	H28.2.4
	ウトナイ湖	苫小牧市	H21	専用	×	H28.1.28



うる 10 カ所を選定した（表-3、図-5）。

- ・施設の整備や改修内容が参考となる事例
- ・計画／設計時の状況や思想が、十分に記憶されていると考えられる新しい施設や近年リニューアルされた施設
- ・設計思想や内容が偏らないよう、設計受注者の重複に配慮

現地のヒアリングは、既存資料を整理して把握した計画／設計における現状と課題について、これまでの先行研究や調査などを基に45の仮説を整理し、「道の駅」の構成要素毎にヒアリング項目として設定した。これらの内容を中心に各自治体の「道の駅」担当者と実際の管理運営に携わっている担当者及び過去に複数の「道の駅」の管理運営に携わったことのある有識者に対して、ヒアリングを実施した(写真-2)。ヒアリングの主な内容は以下のとおりである。

- ・発注範囲（駐車場設計・施設設計など）、発注方式、発注先
- ・専門家の関与
- ・トータルプロデュースの実施状況／方法（プロジェクトマネジャーの存在など）について
- ・良いと感じている点

「道の駅」の設計・改修技術に関する研究



写真-2 左：現地ヒアリング状況(イメージ)
右：レイアウトが容易な長方形の施設(イメージ)

- ・不都合を感じる点 (改善したい点)
- ・改善したい各項目についての改善の必要度合い
- ・改善したい各項目についての改善の優先順位
- など

(3) 主なヒアリング結果

現地ヒアリングより把握した主な結果を表-4 に示す。これらのうち、多くの「道の駅」で共通していたものや特徴的なものについて以下に記す。

表-4 設置者・管理運営者・有識者（管理運営）の主なヒアリング結果

	設置者（自治体）、管理運営者、有識者（管理運営）	
	良い点	改善点
駐車場		・駐車台数の不足 ・堆雪スペースの不足 ・積雪により区画線がなくなる ・EV施設も整備すべきである ・利用者のテント張りに苦慮
園地	・利用されている園地 ・自由に使える芝生 ・地下水を芝生の管理に利用	・狭い園地 ・利用者に認識されない園地 ・建物内から、見えない園地 ・利用されないステージ ・堆雪スペースとなるため建物が見えなくなる ・凍通なしの集水路は、時期により、日々の交換が必要となる
イベントスペース（屋内・屋外）	・利用頻度の高いイベントスペース ・イベントに活用できる中間領域	・中間領域にテントを立て実施 ・広い屋外スペース ・建物前面に中間領域がない ・狭い屋内スペース ・屋外に排水設備があると良い ・増築によりスペースがなくなった
建物	・開放感のある吹き抜け ・景観に配慮した外観・デザイン ・利用者から印象が良いデザイン	・熱効率の悪い吹き抜け ・デザインにこだわった狭い建物 ・認識されない2階のレストラン ・「道の駅」として認識されない園道に背を向けたレイアウト ・使いづらい円形の内部 ※厨房設備は四角いため配置が困難 ・雨漏りし、雪が落ちにくいデザインの凝った屋根
窓	・施設全体に自然光が入り開放感と清潔感がある ・安らぎのある大きな窓	・窓付近に棚を設置したため、暗くなってしまった ・光が入りすぎるため、遮光シートを後から貼った ・日中は明るい、日が落ちたら暗い ・西日が暑い ・太陽光により商品が傷みやすい ・天窓の清掃は困難である ・天窓からの日差しで商品のチョコレートが溶けた
出入り口（施設）		・出入り口が狭い ・園地への出入り口がわかりにくい ・入口付近に棚があるため、奥まで見通せない ・産直品を持った状態で開閉に苦慮するドア ・吹きだまりができる
休憩施設	・広い屋内休憩スペース ・中間領域に屋外休憩スペースを確保 ・夏期、屋外にイス・テーブルを常設している、にぎわいがある	・テイクアウト商品を自由に食べられる休憩スペース ・屋内休憩スペースがない ・無料の休憩スペースが不足している ・家族連れが多いため、休憩スペースを増やしたい ・バーゴラなどがあれば良い ・大型バスなどのドライバーの休憩スペースを確保したい
情報提供	・事務所と観光案内所が近いので効率的な対応が可能	・スペースがない ・スペースが狭い
トイレ	・足りているトイレ ・自然光を取り入れ、明るく清潔なイメージは利用者の評判がよい	・不足しているトイレ ・トイレの位置がわかりづらい ・大型バスがくるとトイレが不足する ・ベビーチェアへの要望がある ・鉄分の多い地下水は、便器に色が付着し、センサーなども壊す ・異物（ペットの糞・オムツなど）を流されると浄化槽のポンプが詰まる
物販	・地域初のパン屋が好評である	・インフォメーションと物販が一体化しており、利用客が行き来できて良い ・スペースが狭い ・地域に商店がなくなったため、購買施設の要望がある
直売所		・直売所が分棟になっているため不便である ・狭い直売所 ・地方発送の梱包・保管スペースがない
バックヤード	・増築時に運営者の意見を反映しているため、足りている	・バックヤードがない ・バックヤードが不足している ・プレハブ倉庫を建て対応 ・冬期間、商品が凍結してしまうプレハブ倉庫 ・冷蔵で保管できるスペースが限られているため、繁忙期に苦慮している ・当初計画の冷蔵庫では不足したため、プレハブを建て設置した
事務室ほか	・休憩スペースや更衣室は充実している	・職員の休憩スペースがない ・事務処理をするスペースがない ・職員の休憩スペースなどがなかったため、パーティションで間仕切りし対応 ・物販スペースを広げため事務室がなくなった ・休憩スペースと更衣室が同じため狭い
動線		・産直施設の動線が悪い ・物販施設などで、従業員同士がすれ違うことが困難である ・従業員の動線が確保されていない ・トイレなどの動線上に混雑する設備があると通行阻害になる可能性がある
冷暖房		・後付のため割きだしの冷房 ・事務室に冷房がないため暑い ・夏場は窓を開けて運営しているが、虫が入ってくる ・暖房ボイラーが1つなので効率が悪く、コストが高い ・床暖房は燃料費がかかる
照明		・天井が高いため、照明が暗い ・照明の照度計算が悪く、夜間、文字が見えない ・商品棚がライティングされていない ・鳥獣保護区の関係であまり明るくできない
電気設備		・電気容量が不足している ・停電時、水・暖房など使用できない
ゴミ箱		・ゴミ置き場がない ・利用者がその辺にゴミを置いていくため、ゴミ箱を後付
冬期管理（除雪、落雪等）		・屋根からの落雪処理に苦慮 ・屋根からのつららに苦慮 ・冬期の建物内の結露が酷い
防災施設	・EV充電器の蓄電機能は、災害時に利用可能 ・災害時、受水槽内の水は利用可能	・太陽光パネルにより、一時的な電源確保は可能 ・コミュニティFMを設置している
サイン		・トイレのサインが大きすぎた ・デザイン重視でサインを小さくしたが、わかりづらかった ・サインがないため後付けした ・外国人旅行者のため英語表記とした ・多すぎるサインは見栄えも悪くなるためバランスが難しい
その他	・暖炉 ・室内のキッズスペースは好評である ・近隣のサービスの利用が多い ・授乳室などがあり、子育て世代に配慮された設計	・地下水のため断水時も問題ない ・建物が長方形とシンプルな作りなため、レイアウトの変更が容易 ・ドックランを後付けした（利用者の積み分けができて好評） ・電線・電柱の地中化 ・雪の影響のため、使用ができない通路 ・会議室などはあるが利用頻度が低い ・認知不足もあり加工研究室が利用されていない ・授乳室の要望がある ・利用者が持ってくるトレーなどを置く場所がない ・補助事業の制約により設計の自由度が低い

「道の駅」の設計・改修技術に関する研究

○良いと感じている点

「開放感のある吹き抜け」や「自然光の入る施設内（写真-3）」は、開放感と清潔感があるとされた一方で、管理面などで「熱効率の悪い吹き抜け」（写真-4）、「大きな窓は明るい、直射日光により産直品などの商品の傷みが早い」、「日中は明るい、壁がないので日が落ちると暗い」、「天窓は掃除に苦労する（写真-4）」など、立場や視点が変わるとマイナス面ととらえられるなど、多面的な評価をされた項目も少なくなかった。

防災面では「コミュニティーFM」や「自然落下式の受水槽」などが有効な施設として挙げられた。



写真-3 自然光の入る明るい施設(イメージ)



写真-4 左：熱効率が悪い吹き抜け(イメージ)
右：掃除に苦労する吹き抜け(イメージ)



写真-5 左：園地の出入り口がわかりづらい(イメージ)
右：利用者からわかりづらい園地(イメージ)

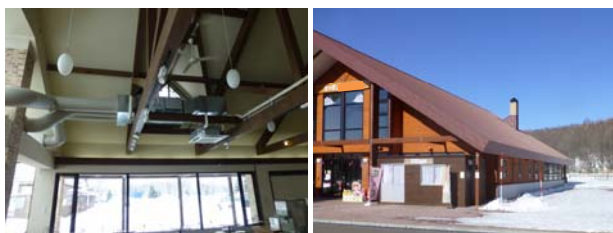


写真-6 左：後付けされたエアコン(イメージ)
右：落雪の危険がある屋根(イメージ)

○不都合を感じる点（改善したい点）

「駐車台数の不足」と「園地の配置と利用しにくさ」が多かった。

例えば、「駐車場と園地が建物で分断されている」、「利用者にわかりづらく、利用されない」などの指摘は、現地調査からも容易に確認できた（写真-5）。

他には「バックヤード」や「動線」に関するものが多く、中には「冬期間、商品が凍結してしまうプレハブ倉庫」や「冷涼な北海道では、当初から冷房設備が完備されて居らず、後付けになり、機器が剥きだしになっている（写真-6）」、「屋根からの落雪（写真-6）」などの運営に影響する設計事例も少なくなかった。

また、防災機能では、「停電になると水・暖房などが使えない」点が大きな課題と再確認された。

他には「補助事業の制約により、設計の自由度が低くなってしまった」、「後付けによる建物の雰囲気への悪影響」の声も多かった。

ヒアリングの結果からは、計画段階と運営段階における想定に差異があったため、運営後、不都合を感じ、改善したくなるなど、運営時の使い方を考慮した計画や設計が必要であることなどを把握した。

4.2.2 設計者ヒアリング及び有識者（計画・設計者）ヒアリング

(1) ヒアリング対象者について

4.2.1 のヒアリング調査を実施した「道の駅」のいくつかと、北海道内で複数の「道の駅」を設計した設計者及び有識者に対して、以下のヒアリングを実施した（写真-7）。

(2) ヒアリング内容

主に以下の内容についてヒアリングを行った。

- ・計画・設計の実施範囲
- ・施設規模算定における留意点や課題
- ・設計における具体的な施設や設備項目（重要度の高い項目や設計の良し悪しが影響する項目）
- ・全体として計画・設計時に特に配慮すべき点
- ・設置者や運営者に多く指摘された項目についての確認、など

(3) 主なヒアリング結果

設計者ヒアリングより把握された設計上の留意事項を表-5に示すとともに、特徴的なものを以下に記す。

例えば、「駐車場と交通島」や「歩行者の動線」についての重要性や課題の他、「休憩施設」や「景観・デザイン・素材」に関する項目が多かったが、駐車場において「舗装のことを考えるのなら、寒冷地では植樹柵などを設けて縁切りした方がひび割れしにくい」や

「道の駅」の設計・改修技術に関する研究

表-5 設計者・有識者（設計者）の主なヒアリング結果

	設計者・有識者（設計）
留意事項	
駐車場	・基盤がないため、道路舗装と同様にアスファルトにしている ・一面アスファルトの駐車場は、凍上等でひび割れが発生しやすい ・駐車場は早い段階で警察協議すると手戻りが少ない ・安全な歩行が確保するには交通島が必要である ・駐車場は、安全性を考慮して建物に対して平行に配置している ・駐車場の通路は、6～7mあれば良い
園地	・園地の通路はコンクリート舗装の方が良い
建物	・建物だけでなく周囲の風景もつくることも考えるべきである ・まちの景観にふさわしいデザインであるべきである ・景色を見るだけのタワーは、やめた方が良い ・良いと思われる「道の駅」は、開口部が広くて明るく、木材などの自然素材という共通点がある
休憩施設	・計画時、休憩施設として設計しても、運営後、別施設になっている ・天気の良い日は、外で休憩するという考え方も必要である
情報提供	・情報提供内容が最後まで決まらない
トイレ	・トイレの流し水が不足する場合は、ビット方式としている ・トイレの規模設定が重要
物販	・2階のレストランは、あまり人が来ない
直売所	・直売所だけでなく考えることやパターンの複数ある ・大きな消費地がないのであれば、地元をターゲットにした規模設定とすべき
バックヤード	・施設の使い方を踏まえた検討が必要 ・バックヤードが不足するのは、スケルトンで箱を先につくってしまうのが原因と考える
事務室ほか	・事務室は、人に見られて嫌だという思いと、サービスが行き届くという両面を持っている
サイン	・デジタルサインはやめた方が良い
その他	・道路からの見え方が重要である ・水鏡に問題がないのであれば、井戸は増やしても良いと考える ・バリアフリーは基準どおり設計が必要であるため、実態とかけ離れることが問題と考える ・交通量からの施設規模算定に疑問を感じる ・中心市街地型と郊外型でターゲットを変えなければいけない ・トータルプロデュース、トータルコーディネートできる人材が重要（空間、コンテンツ、まちづくり、観光、景観のわかる人材） ・コンテンツが重要である ・施設の利用のされ方やピークが変わることも考慮すべきである ・「道の駅」がブランドになったことで、自治体は作れば人が来ると思ってしまう ・郊外に「道の駅」ができる市街地が分散してしまう ・「道の駅」を支える見えない地域の仕組みが必要である ・完成後の管理運営システムは重要

「歩行者の安全な動線を確保するためには、交通島を配置したい」など計画・設計時に配慮すべき課題のほか、「休憩施設」、「施設規模の設定の難しさ」に関する項目が多かった。

また、明確な「コンセプト」や「コンテンツ」及び「管理運営システム」を考えずに運営しても、直ぐに魅力がなくなってしまうことや、「景観・デザイン・素材」の重要性に関する項目も多く、それらについては現地調査からも確認できた。

加えて設計者からは、『駐車場内を歩行する利用者の安全性を高めるため、駐車場設計において、緑地帯や交通島などを提案しても、参考となるガイドラインがないため、自治体担当者は、その適用を躊躇する。』など、駐車場設計だけでも、留意すべき事項が挙げられ、「道の駅」の計画／設計において参考となる指針の必要性を確認した。

また、ヒアリング全体として、計画する「道の駅」のコンセプトやコンテンツ、「道の駅」の空間づくりや、まちづくりとの関係、観光振興、景観配慮などをトータルにプロデュース・コーディネートできる専門家が重要であることも把握された。

4. 3 アンケート調査

「道の駅」の、進化し多様化していくニーズや活用などを把握するため、「道の駅」を管理運営する各自自治体の担当者及び管理運営者に対して、アンケート調査を実施した。

(1) アンケート調査箇所

4. 2 のヒアリング調査を実施していない、北海道内の「道の駅」50 駅に対して、平成 28 年 1 月～3 月の間で、メールと電話によりアンケート調査を行った（表-6）。

(2) アンケート内容

4. 2. 1 のヒアリング調査の調査内容をベースに、回答しやすいよう『満足している』、『改善したい』を 5

表-6 アンケート調査概要

調査期間	調査箇所	アンケート調査内容
2016年1月～3月	北海道内の「道の駅」（50駅） 石狩・空知管内 12駅 上川管内 12駅 宗谷管内 3駅 十勝管内 14駅 胆振管内 9駅 ※協力機関 北海道開発局 北海道「道の駅」連絡会	・外観 ・物販 ・直売所 ・情報提供 ・冷房 ・トイレ ・バックヤード など “満足している”、“改善したい”を5段階評価



写真-7 上：設計者ヒアリング状況(イメージ)
下：配慮事項が多い駐車場(イメージ)



写真-9 左：自然素材で好事例の施設(イメージ)
右：屋外の休憩施設(イメージ)

「道の駅」の設計・改修技術に関する研究

段階で評価してもらい、改善したい内容について自由記述して貰った(図-6)。

(3) アンケート結果

アンケートの結果、直売所、休憩スペースやバックヤードに対する満足度が低いことを把握した(図-7)。

「道の駅」施設に関するアンケート調査

道の駅名: _____ (所属: 自治体・道の駅) 電話: _____ No. 1

問1: 1～18の質問項目について、満足度(5段階)をマークしてください。「改善したい」理由があれば記載してください。
19～26の質問項目について、該当する回答にマークしてください。

番号	質問項目	満足度	改善したい理由	その他の質問
1	トイレ			
2	物販			
3	直売所			
4	休憩スペース(屋内)			
5	休憩スペース(屋外)			
6	情報提供			
7	冷房			
8	トイレ			
9	バックヤード			
10	職員休憩スペース			
11	動線			
12	窓			
13	照明			
14	電気容量(設備)			
15	駐車場			
16	自動販売機の設置箇所			
17	ゴミ箱の設置箇所			
18	出入り口(施設)			
19	冬期管理(暖房、除雪、凍害等)			
20	園地			
21	イベントスペース(屋内・屋外)			
22	建物・管理の整潔さ			
23	防災対策			
24	サイン類			
25	保健所			

問2: 現在、困っている(改善したい)点があれば記載ください。(自由回答)

問3: 設計時に配慮して欲しい施設・設備はありますか?(複数回答可)

問4: 改善できるなら、改善したい番号を優先順位をつけて上5つ記載してください。(複数回答可)
※改善に費やす予算は考えずにお答えください。

図-6 アンケート調査シート(イメージ)

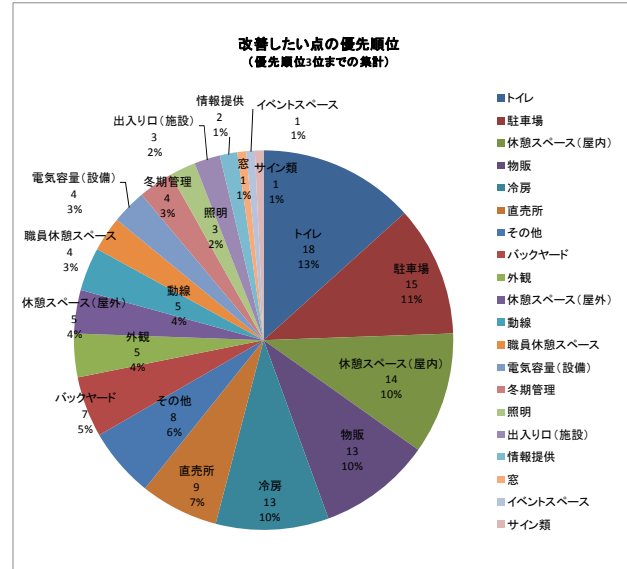


図-8 改善したい優先順位

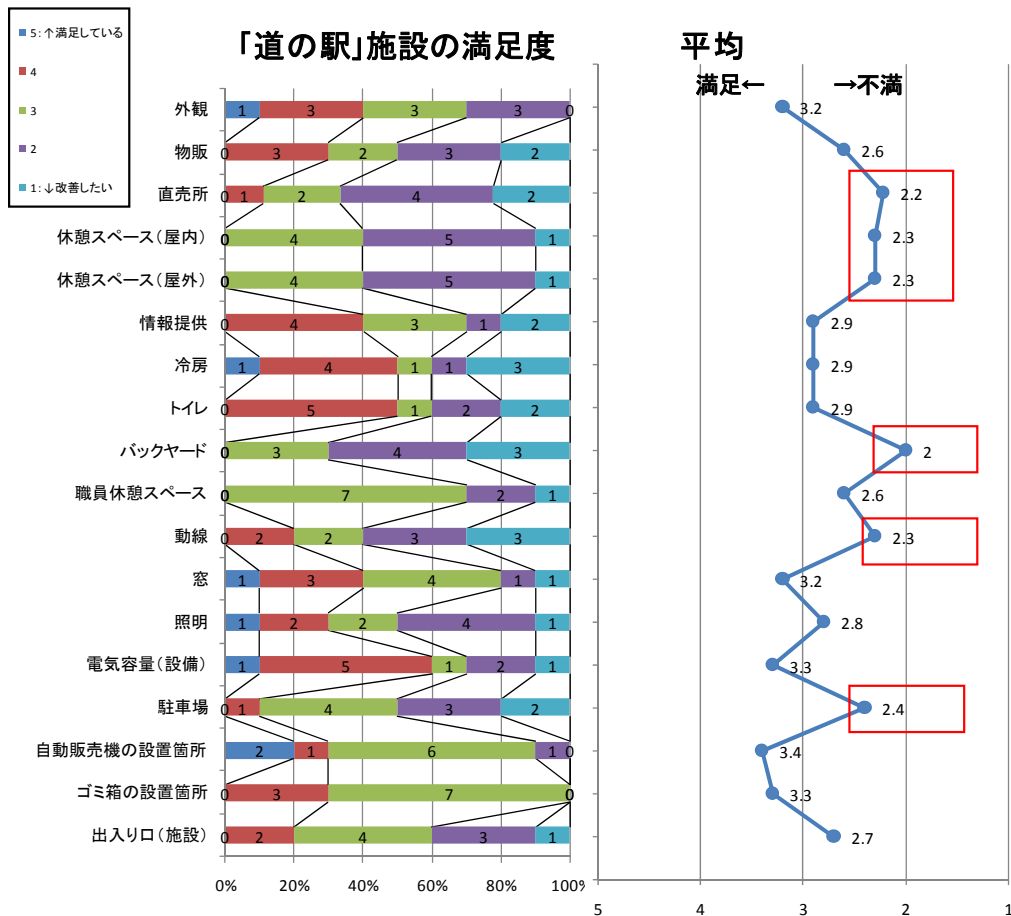


図-7 アンケート調査結果

自由回答では、職員休憩スペースなどに関し、そもそも「設置されていない」との意見もみられ、計画時から「道の駅」の施設設計における配慮事項が把握できる資料の必要性を再認識した。

改善したい施設の優先順位は、図-8のとおりであり、トイレが最も高く、次いで、駐車場、休憩スペース（屋内）、物販、冷房、直売所、バックヤードの順になっていた。これは「道の駅」の制度が始まって20年以上が経過し、使用している施設や設備が老朽化してきたことや、当初計画の想定を上回る利用者ニーズ、元々「道の駅」ではない既存施設を活用して「道の駅」にしたことなどが理由と考えられる。

4.4 現地調査

「道の駅」の要素別の設計やデザインの現状と課題を把握するため、現在運営されている「道の駅」や設計において参考となる質の高い民間施設で、現地調査を実施した（表-7）。

課題の整理にあたっては、利用者にとっての利便性や快適性／魅力に主眼を置き、既往研究成果⁷⁾も参考として、構成要素及び施設改善（整備）方策に関連づけて整理した。現地調査の結果（表-8）、既存の「道の駅」は使い勝手や利益面が重視され、快適性や魅力が損なわれている例がみられるが、対象とした民間施設はおもてなし感があり、魅力的な印象となっていることを確認した（写真-10、11、12）。

得られた結果は今後の「道の駅」の利活用のされ方や利用者評価の関係性を把握するための基礎資料としても活用することとしている。

表-7 現地調査箇所

地域	道の駅	所在市町村	登録年度	専用 / 既存施設活用	複合施設	調査年月
後志地方	望洋中山	喜茂別町	H5	専用	○	H27.10
	真狩フラワーセンター	留寿都村	H18	既存	○	
	ニセコビュープラザ	ニセコ町	H9	専用	×	
	230ルズツ	留寿都村	H14	専用	○	
	民間施設	ニセコ町	—	—	—	

表-8 現地調査結果

	現地調査結果	
	道の駅	民間施設
駐車場	・駐車マスの、建物に対して平行に配置されている点は良い ・区画線が消えかかっている	・臨時駐車場の舗装は一面アスファルトであるが、高低差を付け、施設から見えない配慮をしている
園地	・駐車場から園地が確認できない	・園地は、地形、既存植生、眺望などを活用している
建物	・レンガ造りの建物の前に自販機設置したことで、雰囲気を出している ・通路にものを置いて、ゆとりがない室内空間になっている	・軒下にベンチなどを設け、休憩スペースとして活用 ・統一感のある設えで、良い雰囲気の室内空間となっている
窓	・ガラスへの張り紙が残念である	・開放感のある窓
出入口（施設）	・ポスターなどを貼って、建屋内が見えない	・入口付近に花や緑を配置し、おもてなし感がある
休憩施設	・中間領域が少なく、ゆとりがない ・眺望の良い休憩スペースがあるが、活かしきれていない	・中間領域を設け、ゆとりがある ・地域の景観資源を眺望できる箇所に休憩スペースを設けている
物販	・商品が高いところに配置されている	・商品を整然と陳列している
照明	・商品へのライティングがされていない	・温かみのある照明
サイン	・日本語表記のサインでは、外国人には理解されない ・イージーなどを併用した看板が良い	・外国人にもわかりやすいピクトグラムを使用している

4.5 「道の駅」に対する多様なニーズの整理

前述までに述べた、既存資料から抽出された「道の駅」のニーズと期待される役割、及びヒアリングなどから把握したニーズも反映して、「道の駅」に対する多様なニーズについて整理した。

4.5.1 「道の駅」に求められるニーズの整理

4.1 節で一次整理した「道の駅」に対するニーズや期待される役割を「道の駅」利用者に関する項目を抽出した。その結果、136 の項目が抽出された（表-9）。抽出された136項目の内、76項目は全ての利用者に該当する情報提供など共通のニーズであり、残りの60項目は、“利用者分類”や“属性”が限定されるニーズ



写真-10 左：おもてなし感が感じられない入口(イメージ)
右：おもてなし感があり、魅力的な入口(イメージ)



写真-11 左：中間領域が少なく、ゆとりがない空間(イメージ)
右：中間領域を設け、ゆとりある空間(イメージ)

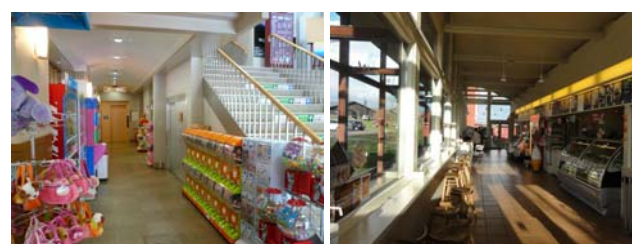


写真-12 左：通路にものを置いて、ゆとりがない室内(イメージ)
右：ゆとりある空間で、雰囲気が良い室内(イメージ)

表-9 「道の駅」利用者に関する該当項目数

場面	「① 道の駅利用者」に関する ニーズ等の該当状況											
	全利用者 共通	利用者分類						属性				
		自動車利用者		自転車 旅行者	バス利用者		地域 住民	女性	高齢 者	障がい 者	外国 人	
		旅行 者	業務 利用者		ツアーバ ス（旅行 者）	路線バ ス（住 民）						
平常	60	22	16	19	16	13	15	3	5	7	14	
災害	14	3	3	2	2	3	3	0	0	0	0	
平常及び 災害	2	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	
合計	76	26	20	22	18	16	18	3	5	7	14	

「道の駅」の設計・改修技術に関する研究

や役割であった。

同様に設置者（自治体）、管理運営者、道路管理者、その他（観光協会ほか）で整理を行ったところ、以下のとおりであった。

- ・設置者：56 項目（平常時 47 項目、災害時 9 項目）
- ・管理運営者：15 項目（平常時 15 項目、災害時 0 項目）
- ・道路管理者：12 項目（平常時 9 項目、災害時 3 項目）
- ・その他：39 項目（観光協会 25 項目、商工会 27 項目、農協漁協 21 項目）全て平常時で重複あり

4.5.2 「道の駅」に期待される多様なニーズの整理

「道の駅」の基本となる 3 機能（休憩・地域連携・情報提供）及び防災機能、その他、5 項目を大分類とし、中分類（26 項目）、小分類（99 項目）を設定して「道の駅」利用者に関する項目を整理・集約化した。これらより「道の駅」へのニーズは多岐にわたること

が把握された（表-10）。

同様に設置者（自治体）、管理運営者、道路管理者、その他（観光協会ほか）で整理を行ったところ、以下のとおりであった。

- ・設置者：中分類 18 項目、小分類 50 項目
- ・管理運営者：中分類 14 項目、小分類 28 項目
- ・道路管理者：中分類 7 項目、小分類 11 項目
- ・その他：中分類 7 項目、小分類 20 項目

整理・集約化したニーズの小分類毎に、さらに基本・タイプ別・個別の 3 つのニーズを設定し、ツリー形式の体系図として整理した（図-9）。また、これら整理したものを大分類毎にカルテ形式にとりまとめた（図-10）。

- ・基本ニーズ：全てに求められる基本的な機能
- ・タイプ別ニーズ：タイプ、コンセプト、ターゲット等に応じて求められる機能
- ・個別ニーズ：「道の駅」の個別の状況によって、求められる機能

表-10 ニーズや期待される役割の集約結果（「道の駅」利用者）

ニーズ・期待される役割					一次整理結果等で該当する対象者										該当する場面						
大分類	中分類		小分類		全般	利用者分類						属性				平常時		災害時			
	No	内容	No	内容		自動車利用者		自転車旅行者	バス利用者		地域住民	女性	高齢者	障がい者	外国人	イベント時					
						旅行者	業務利用者		ツアーバス（旅行者）	路線バス（住民）											
休憩機能	1	駐車場の設置	1	24時間、無料で利用可能（疲労回復、仮眠など）		○	○									○		○			
			2	十分な容量（駐車台数）		○	○										○	○	○		
			3	利用しやすい（明確な白線等）	○													○			
			4	車いす利用者等駐車場の設置											○		○				
			5	臨時駐車場		○	○												○		
			6	キャンピングカー等による車中泊		○												○			
			7	EV充電施設の設置		○	○					○							○	○	
	2	トイレの設置	8	24時間、無料で利用可能		○	○		○		○					○	○		○		
			9	十分な容量（便器数、大型バスへの対応）		○	○		○		○							○	○	○	
			10	清潔なトイレ（水洗式等）		○	○		○		○							○			
			11	障がい者用のトイレ										○	○			○			
			12	女性や赤ちゃんを連れの方が利用しやすいトイレ（オストメイト、ベビチェア）										○				○			
			13	認識しやすいところへの設置	○														○		
	3	歩行経路の確保	14	主要な歩行経路のバリアフリー化（スロープの設置等）										○	○			○			
			15	動線計画上、機能的な施設配置	○														○		
	4	無料休憩スペースの設置	16	リフレッシュできる屋内無料休憩スペース		○	○		○		○						○	○			
			17	リフレッシュできる屋外無料休憩スペース		○	○		○		○							○	○		
	5	園地・庭園の設置	18	リフレッシュできる園地・庭園の設置	○													○			
			19	四阿・展望台の設置	○														○		
	6	入浴・仮眠施設等の設置	20	足湯、温泉、シャワー等の設置	○													○			
			21	マッサージ、クイックマッサージ、マッサージ機、按摩等の設置	○														○		
			22	仮眠施設（仮眠、昼寝）の設置		○	○		○										○		
			23	テントスペース		○			○										○		
	7	子供向け施設の設置	24	キッズルーム、託児所、遊具の設置	○													○			
			25	おむつ交換、授乳施設の設置	○														○		

「道の駅」の設計・改修技術に関する研究

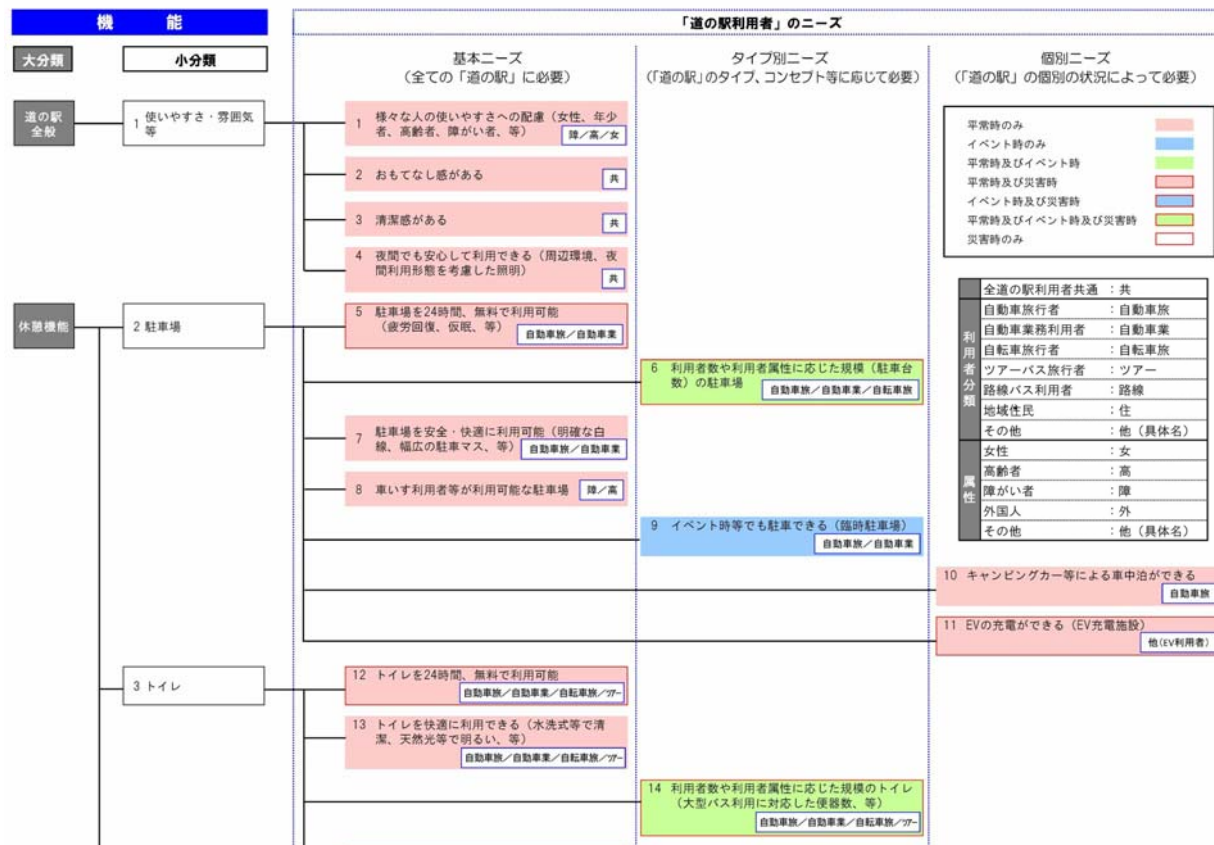


図-9 「道の駅」利用者が求めるニーズ・期待される役割の体系図 (一部抜粋)

対象者	道の駅利用者		大分類	休憩機能 (1/4)		ニーズ分類
	中分類	小分類		特記事項		
		内容	【対象者】	【場 面】		
1. 駐車場の設置	1.24 時間、無料で利用できる駐車場 (疲労回復、仮眠等)	・ 24 時間、無料で利用可能な駐車場の整備は、「道の駅」に必須のサービスであり、「道の駅」の最も基本的な機能の 1 つである。 ・ 道路利用者に疲労回復や仮眠のための休憩がとれるスペースを提供する。	主に自動車利用者	平常時だけでなく、災害時も重要	1	
	2. 十分な容量 (駐車台数)	・ 駐車台数 (駐車場の容量) は、「道の駅」の利用状況に適した規模にする必要があり、計画時から十分に検討する必要がある。 ・ 大型トラックや観光バスの利用が多く見込まれる場合には、大型車用の駐車スペースを十分に確保しておく必要がある。 ・ また、オートバイや自転車の利用が多い場合には、それらの駐車スペースも確保しておく必要がある。	主に自動車・自転車 (オートバイ) 利用者	平常時やイベント時及び災害時	2	
	3. 利用しやすい (明確な白線等)	・ 道の駅の魅力に関するアンケートにおける「また行きたい理由」の 1 位は「駐車場が利用しやすい」であり、道の駅利用者は、駐車場の利用しやすさを非常に重視している。 ・ 白線がきれいにひかれているだけでなく、幅広い駐車スペース (二重線等) や出入しやすい駐車マスの配置、安全性の確保など、駐車場の利用しやすさに留意する必要がある。	主に自動車利用者	平常時	1	
	4. 車いす利用者等用駐車場の設置	・ 車いす利用者等用の駐車場を建物入口に近いところに整備しておく必要がある。	車いす利用者等障がい者や高齢者等	平常時	1	
	5. 臨時駐車場	・ イベント時や繁忙期には、従来の駐車場が満杯になる場合があるが、駐車場を拡張すると開散期等には過剰な施設となる。よって、一時的に駐車場の容量不足が発生する場合には、臨時で設置できる駐車場のスペースを確保しておくことが良い。	自動車利用者	イベント時	2	
	6. キャンピングカー等による車中泊	・ 広大な北海道では、キャンピングカー等の自動車でも何日かけて旅行する方が多数あり、「道の駅」の駐車場における車中泊のニーズが高くなっている。 ・ 24 時間利用可能な駐車場は、トイレとあわせて車中泊に必要な施設であり、温泉、入浴施設 (温泉、シャワー等) や 24 時間営業の店舗 (コンビニ等) も置かれるため、車中泊が多い「道の駅」では、考慮した方がよい。【関連：休憩機能「中分類 6 小分類 20.足湯、温泉、シャワー等の設置」、連携機能「中分類 18.小分類 64.コンビニの設置」等】	自動車旅行者	平常時だけでなく、災害時も活用可	2	

図-10 「道の駅」利用者が求めるニーズ・期待される役割カルテ (一部抜粋)

5. 「道の駅」の計画・設計上の現状と課題の整理

4 章の結果、現在、運営されている「道の駅」には、地域性や個性、魅力を感じる「道の駅」がある一方で、コンセプトが明確となっておらず魅力に欠けるものや、計画・設計時の配慮が足りず運営時に不具合が生じている「道の駅」が存在していることを把握した。

これらの課題を整理するため、既存資料の整理・分析、設計者や有識者などへの関係者ヒアリングから、本来、「道の駅」が運営するまでに必要となる検討手順の仮説を立て (図-11)、「道の駅」の計画・設計上の現状と課題について整理した。

5. 1 「道の駅」の計画・設計段階における要素整理

「道の駅」の計画・設計上の現状と課題を整理するため、構想・計画段階 (基本設計)、設計 (実施設計)・運営段階における構成要素を設定し (図-12)、各段階において関連する構成要素について検討フロー形式に整理した (図-13)。

5. 2 「道の駅」の計画・設計上の現状と課題の整理

5.1 節で整理した結果に、既存資料、現地調査、関係者ヒアリングから得られた計画・設計段階における、現状や課題の事例について構成要素別に、一覧表形式

「道の駅」の設計・改修技術に関する研究

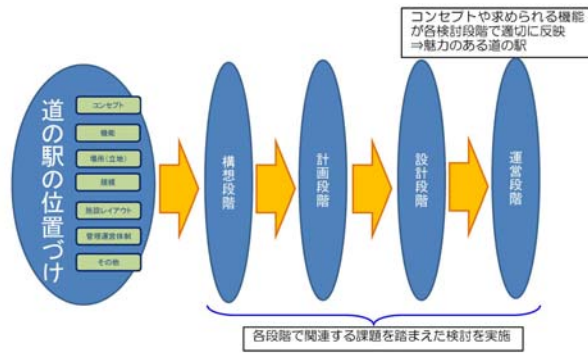


図-11 「道の駅」運営までの検討手順フロー

で整理した。また、これらの把握した各課題について、「道の駅」の機能や魅力に影響する重要度、課題解決のため必要となる技術レベルの難易度、課題が発生する頻度について判定した（図-14）。

一例ではあるが、これまで設計段階の課題と考えられていた施設内のレイアウトなどは、計画段階から、運営時における施設の使い方や、使われ方などを考慮しておかなければならないことであり、このことを考慮せず計画してしまうと設計の自由度がなくなり、結果として「道の駅」の機能や魅力が低下してしまうことが考えられる。

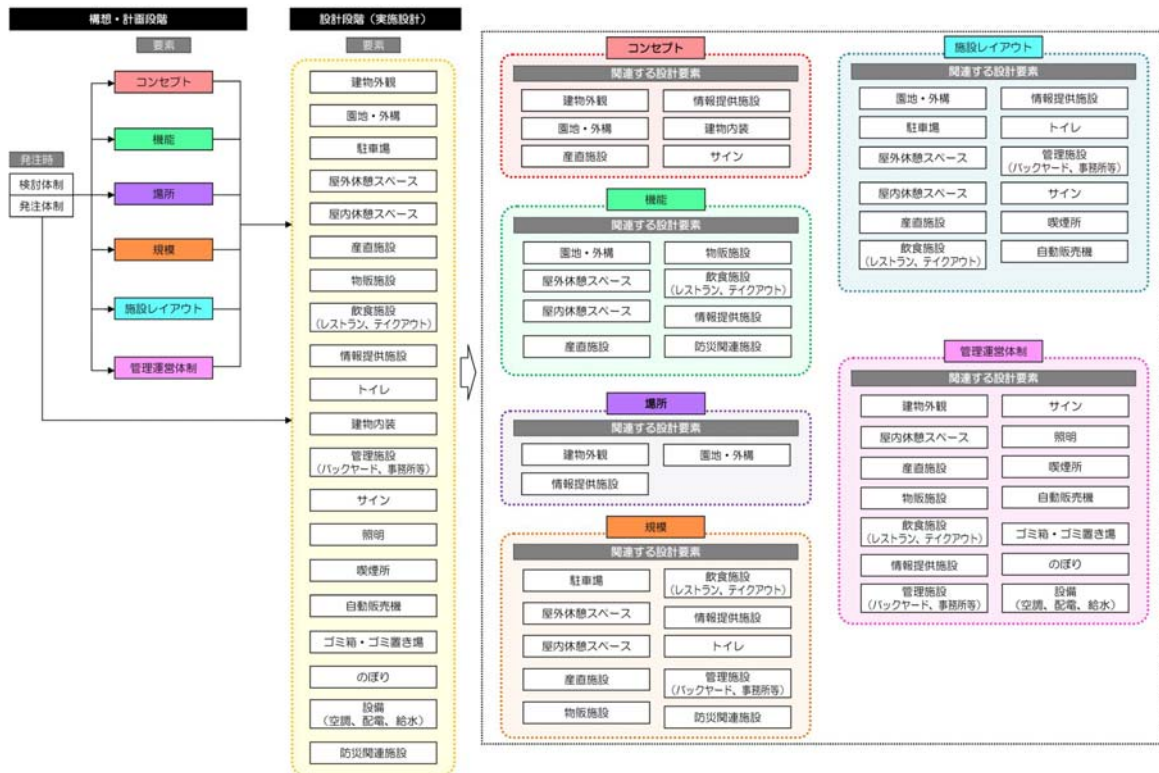


図-12 「道の駅」の検討段階における構成要素関連図

	構想段階	計画段階	設計段階	運営段階	※発注時
コンセプト	デザインイメージ 施設と件整理	意匠計画（内外装） サイン計画			発注方式の検討 発注体制の検討 予算
機能	施設構成	施設構成 園地・外構 休憩スペース	施設設計 意匠 構造 設備 外構 サイン	維持管理	
場所（立地）	周辺環境	情報提供施設		コンテンツ更新	
規模	駐車場 休憩スペース 防災機能 予算	各施設面積			
施設レイアウト	施設構成	ゾーニング計画 動線計画	サイン計画		
管理運営体制	集客機能 サービス	維持管理計画	メンテナンス動線の確保	運営	

図-13 各段階における関連する構成要素の検討フロー

凡 例			
判定	◎	○	△
重要度	「道の駅」の機能や魅力に大きな影響を与える	重要であるが事前に配慮すべき事項	影響はあるが後からでも対応が可能
難易度	高い技術レベルが必要で、非常に対応が困難	ある程度の技術レベル/難しさがあれば対応可能	難しさが対応可能
課題の頻出度	ほとんどが「道の駅」で発生する課題	頻りに発生する課題	ごく稀に発生する課題

	判定		
	重要度(影響度)	難易度 (必要な技術レベル)	課題の頻出度
	◎	○	○
わつくる が異なる	◎	○	○
えいてしま う	◎	○	○
弱い	◎	○	△
弱い	○	○	△
い 本無し	◎	○	○
でない	◎	◎ (継続)	◎
て	○	△	△
きていない	◎	○	○
	○	○	△
	○	△	○
足)	◎	◎	◎
きない 型車の駐車マスが	◎	◎	◎
無かった ベースが無い	○	△	◎
る	○	○	○
て不足	○	○	○
	○	○	○
時に活用できな	◎	○	◎
	◎	○	○

② 機能 ◆ 条件 1 : ・基本 3 機能 (休憩、情報提供、地域の連携) は確保する ■ 現状・課題 ・休養施設に魅力がない。 ・駅前跡地の緑化など、遊歩道を走るようなリアリティができてしまっている。 ・地域の魅力をよみとる情報発信が弱い。 ・駅前スペースと休養スペースが不足している。 賑わいのある駅前の休養スペース 駅口に広がる休養スペース	③ 駅西休養スペース ◆ 条件 1 : ・駅西の開放感を感じられる配置 ■ 現状・課題 ・休養スペースからみが見えなかったため、開放感が無い。 緑を見えし、開放的な空間となっている 遊歩道を歩いた駅西スペースでゆったりでき、かつ緑を空間とっている
◆ 条件 2 : ・魅力のあるコンテンツを確保する ■ 現状・課題 ・情報発信のコンテンツが弱いため、活用されていない。 ・コンテンツが古い。 ・コンテンツの紹介に時間をかけていない。 遊歩道が人気だが、新たなコンテンツの創出が重要	◆ 条件 2 : ・落ち着きやゆとりを感じられるインテリアやレイアウト ■ 現状・課題 ・レイアウトが駅前や駅西エリアに統一感がなく、落ち着いてくれない。 ・駅西エリアの緑化など、自然の活用が弱い。 緑と一体化した遊歩スペースが特長。コンテンツは緑とリンクさせていく必要がある ゆとりのある落ち着いたレイアウト、ゆとり情報発信をすすめていく必要がある。インテリアの統一感もある。

平成 27 年度の研究成果から、「道の駅」の計画・設計上の現状と課題について、主な知見が以下のように

- ・16件の関連文献を収集し、利用者などの対象者別にニーズを整理したところ、「道の駅」に求められるニーズや期待される役割は160項目であった。
- ・現地ヒアリングより、従業員休憩スペースの確保や、バックヤードの不足、後付けされた機器の影響により電気容量が足りないなど、計画段階と運営段階における想定に差異がある場合もあることを把握した。
- ・アンケート結果より、最も改善したい施設としてトイレがあげられ、使用している施設や設備の老朽化や、当初計画の想定を上回る利用者ニーズなどが理由として考えられた。
- ・設計者ヒアリングより、駐車場の設計だけでも配慮すべき事項があげられ、「道の駅」の設計の参考となる指針の必要性を確認した。
- ・有識者ヒアリングより、作ろうとしている地域のための「道の駅」のコンセプトやコンテンツ、「道の駅」の空間づくりや、まちづくり、観光、景観などを、トータル的にプロデュース・コーディネートできる専門家や有識者が重要であることを把握した。
- ・現地調査より、既存の「道の駅」は使い勝手や利益面が重視され、快適性や魅力が損なわれている例もみられるが、良好な民間施設では、おもてなし感があり、魅力的な印象となっていることを確認した。
- ・「道の駅」に対する多様なニーズを利用者・設置者・管理運営者・道路管理者・その他のそれぞれについ

て、「道の駅」が有する機能別に整理した結果、期待される役割は多岐にわたることを確認した。

- ・「道の駅」の計画・設計上の現状と課題について、構成要素を踏まえて整理した結果、計画段階から、運営時における施設の使い方や、使われ方などを考慮しておかなければ、結果として「道の駅」の機能や魅力が低下してしまうことを把握した。

7. 今後の研究の展開

次年度は、“設計上の課題や利用者ニーズの精度向上”及び“要素別の設計やデザインと、利用者評価の関係性を把握”するため、以下の内容を実施する予定である。

- ・北海道外の「道の駅」や、設計の参考となる民間施設、サービスエリアなどへのヒアリングや現地調査
- ・「道の駅」や他の滞留型施設の計画／設計事例を収集し、整理
- ・「道の駅」の要素別の設計やデザインと利用者評価との関係性を把握するため、フォトモンタージュなどを使って「道の駅」利用者による評価実験やアンケート調査

参考文献

- 1) 国土交通省道路局：重点「道の駅」の選定について、2015.1
- 2) 国土形成計画（全国計画）、2015.8
- 3) 第4次社会資本整備重点計画、2015.9
- 4) 北海道総合開発計画、2016.3
- 5) 国土交通省道路局国道・防災課 水谷和彦：「道の駅」の現状と今後の展開、道路建設、2007.11
- 6) 国土交通省道路局：「道の駅」による地方創生拠点の形成、2014.8
- 7) 国土交通省国土政策局：「小さな拠点」づくりガイドブック、pp2、2015.3
- 8) 高田尚人、松田泰明：道の駅の休憩機能の重要性と利用者評価、寒地土木研究所月報第709号、pp38-43、2012.6
- 9) 国土交通省ホームページ：道の駅案内

A Study on Design and Renovation Techniques for “Michi-no-eki” Roadside Rest Areas

Budgeted : Grants for operating expenses

General account

Research Period : FY2015-2018

Research Team : Scenic Landscape Research Unit

Author : YOSHIDA Satoshi

MATSUDA Yasuaki

KABASAWA Hidenori

KASAMA Satoshi

Abstract : Michi-no-ekis (roadside rest areas in Japan) are important not only as rest areas for road users but also as facilities for the promotion of regional development. However, the knowledge held by municipalities and designers about the planning and designing of michi-no-ekis is not sufficient for creating better facilities. Such facilities are often found to be lacking in the functionality and attractiveness required of rest areas. There are many michi-no-ekis that do not satisfy the diverse needs of users.

This study aims at providing appropriate plans and design techniques that meet a specified level of standards and that are able to satisfy the diverse needs of michi-no-eki users.

In FY 2015, we collected reference materials and conducted onsite and interview surveys on the users and other persons involved in michi-no-ekis. We analyzed the materials and interview surveys, and clarified the roles and functions of michi-no-ekis and the needs identified by users. Based on the analysis, we summarized mainly the current state of michi-no-ekis and issues for their planning and design.

Key words : Michi-no-eki, Planning, design, function, issues, user needs